

がん診療の充実、均てん化を図るべく、平成 20 年 11 月にがん診療連携推進病院の指定を受け、平成 21 年 6 月から外来点滴室の運用を開始した。

団塊の世代が 75 歳以上の後期高齢者となる 2025 年問題に向けて、平成 26 年 3 月に山口県厚生連将来ビジョンを策定し、平成 27 年 9 月から本館 3 階病棟を 38 床の地域包括ケア病棟に転換した。同時期に山口県は各医療圏の地域医療構想の策定に動き出し、当医療圏でも地域医療構想策定協議会が発足した。

山口県地域医療構想は平成 28 年 7 月にまとめられ、構想の実現に向けて平成 29 年 12 月に長門総合病院公的医療機関等 2025 プランを策定した。平成 26 年 12 月に実施した耐震診断で耐震基準を満たさないことがわかった本館病棟建替え計画を 2025 プランに盛り込み、地域医療介護総合確保基金からの助成に向けて動いた。

平成 31 年 1 月から令和 3 年 7 月の間に実施した本館病棟増改築工事において、放射線治療棟・本館東棟・本館中央棟が完成し、急性期機能と回復期機能の整備、充実を行った。この工事期間中の令和元年 7 月に病床数の変更を行い、一般病床 204 床・地域包括ケア病床 40 床・医療療養病床 53 床・感染症病床 8 床の 305 床で今日に至る。

今後も、地域の急性期医療・回復期医療・慢性期医療の多面を担い、公的医療機関としての責務を果たすべく努力していく。



(令和 3 年 7 月に竣工した本館病棟)